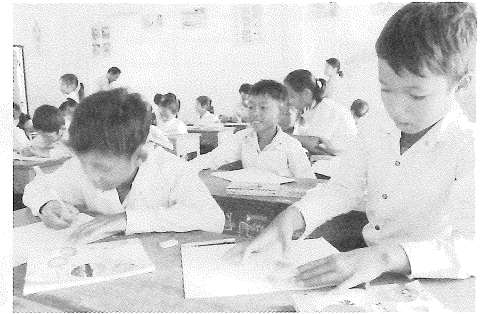
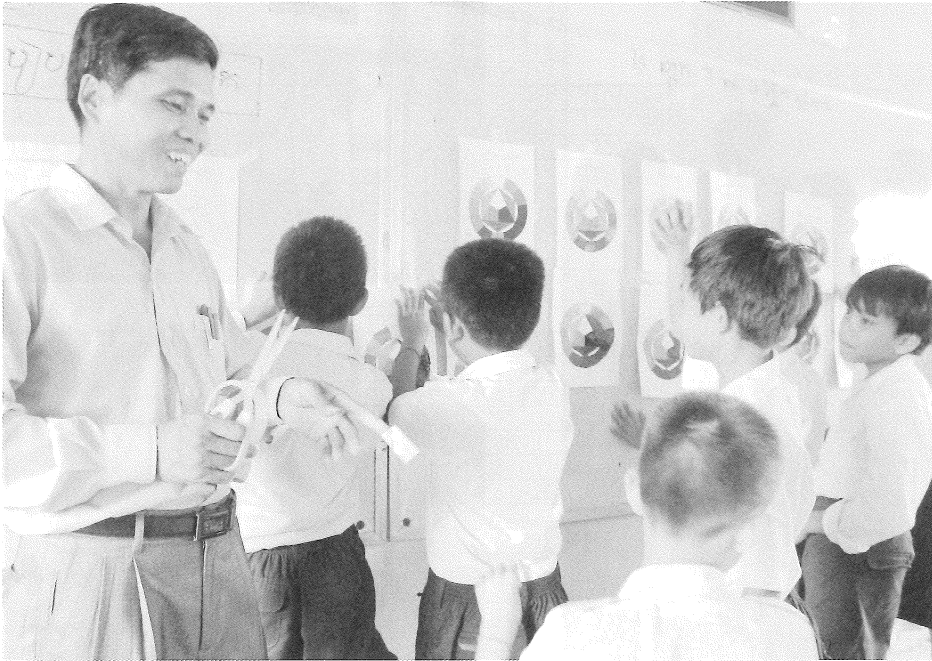


# 教育支援（美術教育）

## 学校内での美術授業の普及を目指して

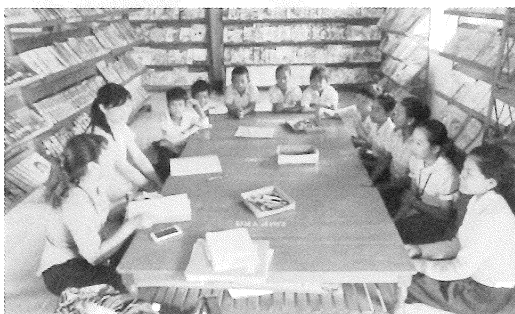


### 美術支援の評価を実施

2014年6月、アユース仏教国際協力ネットワークからの助成を受けて、美術支援の事業評価を行いました。

2012年度から2年間実施した事業は、「研修カリキュラム、指導要綱の開発、コミュニティへのアプローチなどを通じて、対象校での質の高い美術教育をより多くの生徒に提供することに大きく貢献したと言え、また、プロジェクトが導入した美術教育の手法やツールは対象校で有効に活用されており、プロジェクト終了後も効果が持続していく可能性が高い」という評価結果を得ることができました。

その後、事業の成果を教育省内で報告したところ、教育大臣より、カンボジアの子どもたちにとっての美術・音楽教育の大切さを痛感していること、これからも教育省と協力しながら事業を進めて欲しい、との心強い言葉をいただきました。



評価に向けたアンケート風景

### 授業の状況を把握するための観察会実施

2012～13年に美術教育プロジェクトを実施した対象校で、経過観察を兼ねた授業観察会を行いました。教員により授業内容は様々でしたが、生徒の様子から、日頃の美術授業の実施状況の違いが伺えました。授業の継続性や内容の充実が感じられる学校の多くは、学校自体に経済的な余裕がある場合や、裕福ではないが教員や学校長の熱心さや美術教育の重要性への理解が高いという特徴がありました。これは、美術の授業が公立の小学校で自主的に継続されていくためには「人材」と「資金（またはコストの削減）」の両面が必要とされていることを示しています。また、各教員の「こどもの創造性・想像性・感性を育む美術授業」への理解度が、子どもたちの作品に見られる表現の幅に大きく関わっていることも強く感じられました。

### 美術支援の各種取り組み

今年度は、美術支援の対象校32校に対して画材の継続支援を行いました。今年のテーマは、「私の夢の家」（低学年）、「私の夢の町」（高学年）でした。その後、各学校より約1900点の作品が提出され、審査会を行った結果、小山内美江子賞（写真左）、藤原紀香賞（写真右）が選考されました。優秀作品を収めた絵画集は、2015年5月以降、カンボジアや日本の入賞者、全ての参加校に寄贈を進めていきます。



小山内美江子賞



藤原紀香賞

## プロジェクトの背景

カンボジアの美術教育は、教育課程の中で独立した科目でなく、小学校では「社会科」の一部として位置付けられており、指導に十分な時間数がありません。また、学校の経済状況や教員の技術・知識が十分でないことから授業が実施されていないケースもあります。指導されている学校でも、指導内容のほとんどは臨画（模写）であり、子ども達が自ら想像し、新しい考えを生み出す「自己表現活動」としての美術教育は行われておらず、カンボジアの子どもたちが豊かな情操を育む機会は極めて少ないと言わざるを得ません。

## 自校開催の絵画展～プロジェクトの受け手から実施者へ転換～

2014年度、第13回となるカンボジア絵画展は、JHPIによる主催から自校開催に転換しました。その理由は、①対象校が美術活動を自主的に継続していくための自立支援への段階的な切り替え、②コストの削減の2点です。

2015年1月の審査委員会実施時に、絵画展開催のノウハウや地域との連携方法などを伝えるワークショップを実施し、展示に最低限必要な金額（25ドル）を提供しました。会場デザインや展示方法、運営方法等は、各校で検討し、各地域の教育局とも協力し準備を進めてもらうこととしました。

2015年3月初旬、JHPスタッフが対象校の中から9校の絵画展を視察。手間をかけた学校、その場しのぎの感がある学校、きちんと考えられた見やすい展示をした学校、展示よりも審査や他校の招待等に力を入れた学校など、各校の考えや個性がよく表れており、興味深い結果となりました。

インタビュー実施時に強く感じた事は、今回自校開催の絵画展を開くことによって、先生達が、主催者として自分たちの言葉で絵画展を語る立場になったという事です。これは、それまでプロジェクトの受け手であった対象者が、実施者へと転換したということであり、胸を張って多くを語ることのできる、訪問者が楽しむ事のできる絵画展であったかどうかは、彼らの努力にかかっていたということでもあります。今回の初めての自校開催の絵画展は、彼らにとってその気付きと経験に繋がったと考えています。

絵画展開催に際してそれぞれの学校が考案した工夫は、様々な厳しい条件を合わせ持つカンボジアの学校の実状に沿った工夫であり、JHP、対象校の両者にとって今後につながる貴重な経験となったと感じています。

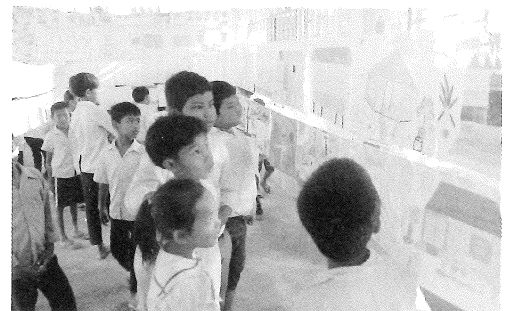


いつもの教室が絵画展の会場に

## レポート

### ■ スバイリエン州 Khset 小学校

教室の中に作品が縦横無尽につり下げられた、ユニークな展示でした（写真右上）。迷路のようになっている点が子どもたちの好奇心を刺激するようで、生徒たちは宝探しのような感覚で積極的に作品を鑑賞していました。「鑑賞すること」自体を楽しめる賑やかな雰囲気が演出されているという点で、とても良い展示でした。準備の段階から生徒たちも良く手伝っていたとのことで、前日の準備の時からロコミで多くの訪問者が訪れていたとの報告を受けました。



### ■ スバイリエン州 Banteay Krong 小学校

学校長が「自分の学校で初めて自分たちで絵画展を開くことができることにワクワクし、本当に嬉しかった」と笑顔で話す姿が印象的でした。渡り廊下での野外展示で、一枚一枚丁寧に台紙に貼られたスタイル（写真右下）は、今回の視察の中で最も見やすいものでした。対象教員は、平日頃から授業で使用する画材の量をコントロールし、JHPからの画材支援が無くても出品できるよう備えていたとのこと。支援に頼るのではなく、自分たちだけでも続けていくという意思が強くあることに、心強さを感じました。

